

## 神吉―日置・氷所の新ルート

―紅葉山トンネル貫通式―

独立行政法人森林総合研究所による農業用道路の整備として昨年1月に着工した紅葉山トンネルの貫通を祝い、7月31日に八木町地内のトンネル坑内で式典が行われました。延長768mで八木町神吉―日置・氷所を結ぶ新ルートとなります。関係者が見守る中、貫通掘削が行われ、通り初めを挙行。その後、威勢良くたるみこしが入場し、鏡開きが行われました。

紅葉山トンネルは今年度中に完成する予定で、来年度中の開通に向けて工事が進められます。



▲貫通穴の前で鏡開きが行われました

## 成功させよう！国文祭京都

―第26回国文文化祭  
南丹市実行委員会(第1回)―

平成23年に京都で開催される国文文化祭。「ここをを整える『文化発心』」をメインテーマに、京都ならではの特色ある事業の展開に向けて、府内の各市町村で現在準備が進められています。

南丹市では、7月21日に各関係機関・学校・団体などで構成する第1回実行委員会を開催。会則により南丹市長が会長に就任し、役員体制や、国文文化祭での南丹市の担当種目などを確認しました。また、イベントとして本年度実施する事業が承認されました。



▲国文文化祭に向けた今後の進め方について協議

## 伝え、つなぐ文化の大切さ

―ものづくり南丹  
文化伝承特別講演会―

国文文化祭800日前記念イベントとして、また今年秋の伝統的工芸品月間国民会議全国大会・南丹ものづくりの祭典の成功を目指した特別講演会を開催。南丹市国際交流会館を会場に、300人の来場者が伝統文化にふれました。

佐々木市長のあいさつに続き、「ものづくり南丹PRビデオ」を上映。第1部は、財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長で、国文祭京都府実行委員会特別顧問の冷泉貴実子氏を迎えて、「伝統工芸と文様」をテーマに講



▲伝統文化について話す冷泉氏

演。冷泉氏は「技を創出することができるのはわずかな天才。その天才が作り出した技を後世に伝えていくことも必要なこと」と話されました。

第2部は、財団法人伝統的工芸品産業振興協会会長、西陣織工業組合理事長で、国文祭京都府実行委員会副会長の渡邊隆夫氏を迎えて、「伝統産業と西陣」をテーマに講演。伝統産業の定義や西陣織の特長・製作工程などをお話しいただき、結びに毎日着物を着られている渡邊氏流の着こなしを伝授していただきました。

同会場のロビーでは京都匠塾による「京の伝統工芸こども教室2009」を同時開催。子どもたちが茶道具作りに取り組む様子を公開しました。



▲気軽に着られる着物の着方を披露する渡邊氏